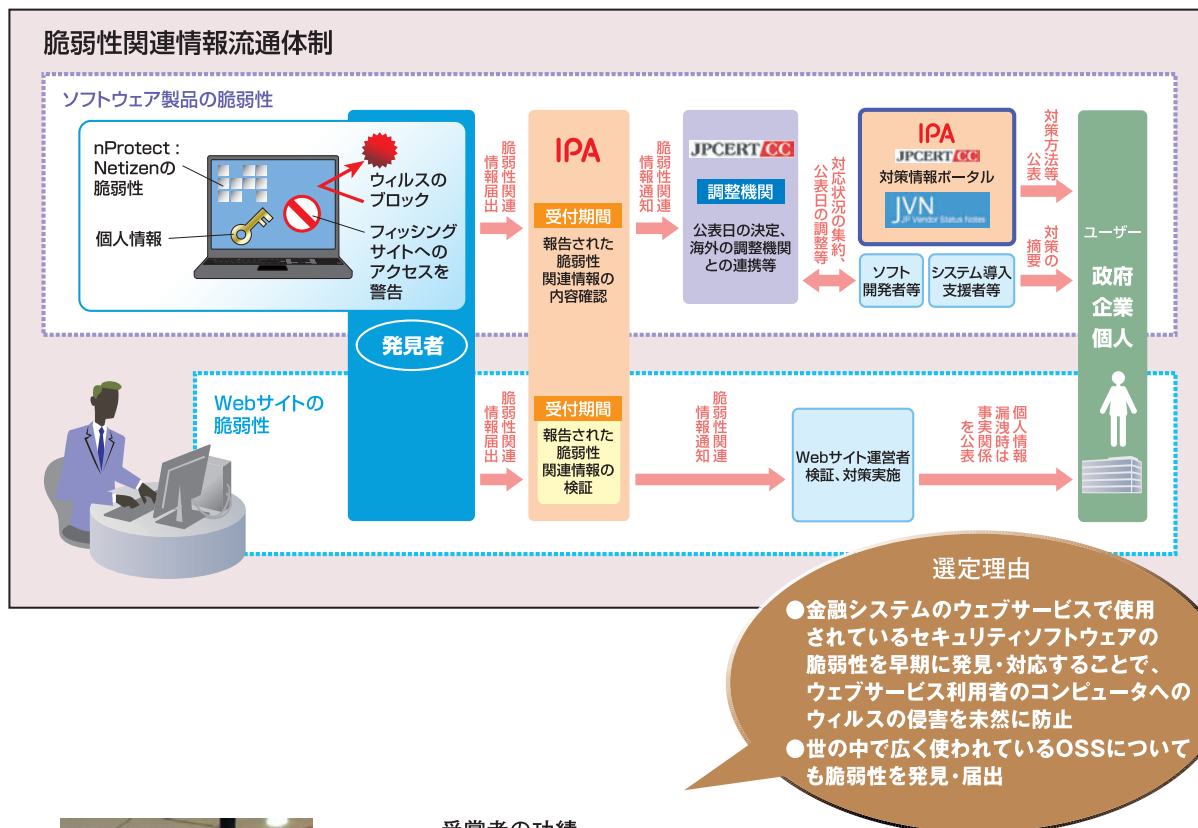


「情報セキュリティ早期警戒パートナーシップ」に基づき、セキュリティソフトやオープンソースソフトの脆弱性を発見・届出



山崎 圭吾

株式会社ラック
セキュアネットサービス事業本部
テクニカルコンサルティングサービス部
グループリーダー

受賞者の功績

IPAでは、経済産業省の告示（平成16年7月8日）を受け、有限責任中間法人JPCERTコーディネーションセンターや関係機関／団体と連携し、脆弱性（ソフトウェア等における安全上の問題箇所）関連情報流通の枠組み「情報セキュリティ早期警戒パートナーシップ」を運用しています。同氏はこの枠組みに基づき、IPAに対し、金融システム等の社会的にインパクトの大きいセキュリティソフトウェアの脆弱性や、世の中で広く使われているオープンソースソフトウェアの脆弱性について、以下の届出を行いました。

- ① XOOPSにおけるクロスサイトスクリプティングの脆弱性
- ② WebminおよびUserminにおける認証回避の脆弱性
- ③ nProtect : Netizenに複数の脆弱性